

Forever 網走! 網走でキラキラしよう!

高校卒業後、網走を離れていた中嶋桃子さんと石栗嘉(よしみ)さん。網走から一度離れたことによって、網走の素晴らしさに気付いた幼馴染の二人は、網走に残せる「何か」をしようと話す。
 「そうだ。網走でキラキラしよう! 網走を盛り上げよう!」のちに『Forever 網走』を主宰することになる当時25歳の女の子2人が最初の場を選んだのは、「珈琲屋デリカカップ」。レトロな空間で、品のあるママさんがいるお店。ここから、いろんな人のいろんな夢が誕生してきたのではないかと。Forever 網走の原点となったこのお店で、創設時の誕生秘話や今後の展望についてインタビューしました。



—石栗さんは東京、中嶋さんは沖縄で働いていたそうですが、網走に戻ってくる気はありましたか?

中嶋: 最初は、ぜんぜん無かった(笑)
 石栗: 私も無かった(笑) 学生時代は網走は田舎だなんて、ずっと思ってた。「何にもない。何にもない。」って。だけど…何も知らなかった。学生だから知ろうとしなかった。

中嶋: 私はおじいちゃんが亡くなった時に、家族の時間も大事にしたいなって思ったのがキッカケで、帰ってきたくまりました。それ以外にも帰省するたびによっちゃん(石栗)と話してたら、網走もすごい良いところだなんて思って…。

石栗: 私たちの仲良い友達はみんな網走から離れて。沖縄や東京、あと和歌山とか名古屋とか。

でも、毎年一緒に旅行とかで集まって、そのたびに離れた私たちがからこそ「いやあ、網走めっちゃ良いよね!」って話は良くしてた。やっぱり同じ地元なんで、お正月に帰省してみんなに会った時も、「網走のココ行こう。あそこ行こう!」って網走を巡ったり。

中嶋: まるで観光客だよ(笑)
 —「Forever 網走」はその流れで?

石栗: まだ東京で働いていた頃、友だちに電話で、「私、もう網走帰るさ。パタラやるさ。」って話したら、「え? 何? 一年限定で帰るの?」「辞めるの? 今の仕事」って言われたので…。

私「いやいや、本当。永住、永住。」友「え? Forever 網走? (ずっと網走にいるの?)」

私「そう! Forever 網走だよー」(笑)
 友「まじでー!!!」(笑) みたいな。

—それは友達も驚きますよね! 最初は何をやると思ってたのですか?

中嶋: 最初は会社をやるうと思ひ、起業している人に話を聞いたのですが、ちょっとそれは難しいなど。それで次にイベントをしようってなって、おしゃれなマルシェとか…。

石栗: 起業にしてもイベントにしても網走にいる皆が網走を楽しめて、網走に居ない人が網走を良い所なんだなって興味持ってくれるような、そういう何かをしようって。

中嶋: うん。何かをしようって、そういう感じでした。メインは網走の若い人にもっと網走を好きになってもらいたいとか。網走つまないじゃなくて、網走だから出来るっていう事をドンドン作っていかたいなって想いから始まりました。

—実際に活動を始めて、帰ってきた人はいる?

石栗: 帰ってきてるよね? 続々と。網走ではなくても北海道に戻ってきた子とか。これから夏に北海道に戻ってくる子がいたり。

—きつと、元々戻ってきたいと思って、二人がキッカケで決断できたのでは?

中嶋: 確かに、友達がいると戻ってきやすいと思います。私もよっちゃんが居るから…地元に戻る決断が出来ました。

石栗: それこそ、桃ちゃんが帰ってくるまでは気軽に遊べる友達がいなくて結構、孤独だった(笑)

石栗: 地元の良い所って、例えばどこ行っても何もないけど、みんなお祭りとかすごい行く。それってイベントどうこうじゃなくて、誰かに会えるからだよ。田舎の地元の良さって、やっぱり人なのかなあって思いますね。



— Forever 網走にはメンバーは何人くらいいるんですか?

中嶋: 全体では30人ちょっとですかね。網走以外の人でも網走にゆかりがある女の子ならOKです。

石栗: 網走在住メンバーは15人くらい。
 —では最後に、これから Forever 網走では、どんな活動をしていく予定?

石栗: 沖縄の糸満市が友好都市なので、網走と沖縄を融合する何か。網走から沖縄に旅行って結構みんな行くじゃないですか。でも、沖縄の人がピンポイントで網走には来てない気がして。だから来年は事業じゃないけど…沖縄と網走を盛り上げるものを作ってきたいな。

中嶋: 挟み込む。北と南から…網走で挟み込む! みたいな(笑)

—中嶋さん、石栗さん。今日は楽しいお話をありがとうございました。

石栗・中嶋: ありがとうございます!
 まさに「網走ステキ化計画」実行中のお二人。今後の活躍をご期待しております!

また、紙面には掲載しきれなかった内容を含めたフルバージョンの記事を、LOVE あばしりのホームページでお読み頂けます。



LOVE あばしりHPはこちら



Forever 網走
 2014年12月23日 Forever 網走発足。
 プレ活動期間を経て、2015年4月から本格活動開始
 ●活動ブログ→ <http://ameblo.jp/ryukyu-abashiri/>
 ●代表: 中嶋桃子(写真右)
 網走南ヶ丘高校卒業。札幌の専門学校を卒業後、就職で沖縄へ。2014年10月帰郷。家業の(株)ナカジマ勤務。
 ●事務局: 石栗嘉(写真左)
 網走向陽ヶ丘高校卒業。札幌の短大を卒業後、就職で東京へ。2013年12月帰郷。アナウンスグループ・ボイスオブホーツク スカイ所属。
 ●インタビュー: 吉田智美
 LOVE あばしり実行委員会で編集・会計を担当。青森県出身、東京農業大学オホーツクキャンパスへの進学をきっかけに網走へ。卒業後も網走を中心に活動中。

●取材協力:
 珈琲屋デリカカップ
 網走市南6条東2丁目
 TEL 0152-44-4519
 営業時間/
 平日 10:00~22:00
 日・祝は21:00まで
 定休日: 毎月第3水曜日



「網走が好きだから」と繰り返す日々

網走に暮らすようになって7年目。「なんでまた網走に?」の質問を何度されたかわかりません。同時に必ず「冬は寒いのでしょうか?」と付け加えられます。返す刀で「東京のあの夏の暑さやあの雑踏の方が寒さよりずっと厳しいと思いますけれど」。続けて「冬は確かに厳しいですが、海も山も湖も森林もすぐそこにあって、オホーツクブルーの空、凜とした冬景色、爽やかな風、四季折々の森の色、リスや鳥と出会える散歩道、新鮮な野菜、美味しい果実、とびきりの海の幸…」と際限のない網走自慢で「どーだ参ったか!」と追い打ちをかけます。それを人は「感動の押し売り」と言いますが、一言で言うところ網走が好きだから。それが単純にして明快なここに住む理由です。

網走の人々が幸せなのはこの素晴らしい環境を『当たり前』として生活できていることです。外から来た人間には全然当たり前ではありません。網走は海産物や流氷



などが有名ですが、私はこの景観と農産物の魅力に注目して網走を発信して行こうと思っています。それをアピールしたくて知床連山、オホーツク海、網走湖などなどを一望にできる天都山の山頂でカフェを夏季限定で開いています。今年はさらに網走の魅力を発信するイベントも計画しています。このカフェからの景色は魔法の杖のように一瞬で誰でも網走の虜にする自信があります。是非、魔法にかかりに来てください。お待ちしております。



寄稿者プロフィール
川田 弥生
 東京都出身、2010年網走市に移住。エンジン株式会社代表取締役。オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾1期生。夏は天都山スキー場山頂ロッジにて「天都山アンテナカフェ」を営業。網走のステキを発信中。
 ●取材協力: abashiri 天都山アンテナカフェ
 網走市呼人15-2 市営スキー場山頂ロッジ2F(はな・てんとの上)
 営業期間: 7月11日~10月4日
 営業時間: 10時~17時 定休日: 火曜



もうひとりのLOVE網走

札幌の建設会社で工事現場を取り仕切っている小林直美さんは LOVE あばしり実行委員会代表の松原美里さんと二人で『LOVE あばしり語り合い会』を立ち上げたパワフルな方です。

高校卒業後、網走を離れ仕事をしていましたが、網走に帰省した際、街中が寂れていく姿を見て、自分に何が出来るのだろうと考えていました。その後、建築の勉強をしよう一念発起し、札幌の建設会社に転職。地道に建築の勉強を続け、2014年、建築士の資格試験に合格しました。更にここから4年間の実務経験が必要なため、今年に入ってから誰もが知っている大手建設会社に転職、力をつけるために工事監督として頑張っています。

現在は札幌の現場で経験を積んでいます。将来の夢があります。まずは網走の実家をリノベーションして建築の賞を獲りたい、賞を獲ることで活動範囲も広がると考えています。そして、網走に古い建物が増えていること、河・湖・海と水辺の景色が豊かなこと、その景色が夏と冬で全く違うものになることなどから、網走の街全体をリノベーションし、綺麗な街

並みにしてみたい、網走駅から港まで続く、港町にしかない景観を作り、観光に活かしたいと考えています。

何かを創るのは得意。発想やひらめきで行動するのも得意。LOVE あばしり語り合い会もその中の一つとして誕生しました。しかし創った後、継続していくのが苦手なので、私は全体を俯瞰で見ながら、みなさんの力を借り、調整や発言していくのがいいのかも。家や建物と同じで建てた後は住む人がアレンジしながら私は後方よりサポートしていくのが良いと自己分析をしています。

男社会と言われる建築現場でこれからは女性目線も重要だと考え、20年後には夢を実現すべく働いています。

寄稿者プロフィール
小林 直美
 札幌在住。網走高校卒業。札幌の専門学校卒業後、仙台でインテリアの仕事に就く。その後建築会社に転職。
 ●インタビュー: 北畑紀和
 LOVE あばしり実行委員会。網走南ヶ丘高校卒業。札幌市在住。

